

4668 明光ネットワークジャパン

渡邊 弘毅 (ワタナベ ヒロタケ)

株式会社明光ネットワークジャパン社長

次なる成長に向けて変革を図り、さらなる業容拡大を

◆2010年8月期第2四半期連結業績

当社は、今年2月本社を池袋から西新宿に移転した。移転の際の設備投資(建物付属設備等)1億4百万円についての当期償却費(7ヵ月)は12百万円である。また、消耗品などの40百万円も費用を計上し、当期の費用計上額は52百万円である。旧池袋本社の原状回復費用など63百万円は、前期末に引当済である。

前期までは非連結決算であったが、昨年9月、医学系の進学予備校東京医進学院の連結子会社化により、当期から連結決算になった。

2010年8月期第2四半期の単体業績は、売上高が61億68百万円(計画比0.2%減、10百万円の未達)、前年同期比4.0%増、2億38百万円増となった。経常利益は18億64百万円(同10.6%増、1億79百万円増)で、同16.9%増、2億69百万円増となった。四半期純利益は11億6百万円(同14.5%増、1億40百万円増)で、同37.3%増、3億円増となった。連結では、売上高は64億80百万円(同0.2%増、13百万円増)、経常利益は18億39百万円(同12.9%増、2億10百万円増)、四半期純利益は10億88百万円(同20.3%増、1億83百万円増)と増収増益の記録を更新した。また、教室数は99教室増の1,863教室、生徒数は3,669人増の12万5,065人と順調に増加している。

売上高経常利益率は、連結で28.4%、単体では30.2%となり過去最高の経常利益率を達成することができた。

[損益計算書] 単体では、売上高は、FC教室の増加によるロイヤルティ収入増、直営教室の講習売上が好調に増加したことが寄与して前年同期比2億38百万円増の61億68百万円となった。売上原価率は53.8%で同1.1%改善した。これは、直営教室の増加などにより人件費は増加したが、社員、講師の募集広告費が減少したことによる。販売管理費は10億60百万円で、同1.1%改善した。これは広告宣伝費の減少、販売品のデザイン費の減少によるものである。この結果、経常利益は18億64百万円(前年同期比16.9%増、2億70百万円増)、四半期純利益は11億6百万円(同37.4%増、3億1百万円増)となった。連結では、昨年9月に連結子会社化した東京医進学院の業績および持分法関連会社である創企社の投資利益4百万円を加味している。以上の結果、連結売上高は64億80百万円、経常利益は18億39百万円、四半期純利益は10億88百万円となった。

[貸借対照表] 第2四半期末における資産合計は、前期末より0.6%増、81百万円増の136億67百万円となった。資産の部では、短期有価証券の償還があり、流動資産は6.5%減、4億71百万円の減少となった。一方、投資等は、みずほ銀行の社債取得などにより10.2%増、5億19百万円の増加となった。負債の部では、銀行借入金の返済が8億39百万円あったが、内訳は、当社が2億83百万円、東京医進学院が5億56百万円である。なお、東京医進学院は、当社からの借入により銀行借入をすべて返済した。純資産の部は前期末より8.0%増、8億5百万円増加した。これは四半期純利益10億88百万円、配当金支払2億98百万円などによるものである。以上の結果、当社の財務体質は高い安全性を維持している。自己資本比率は79.3%と高水準を維持し、短期支払能力を示す流動比率は290.7%と高い水準になっている。

[キャッシュフロー計算書] 営業活動キャッシュフローは、堅調な業容拡大の結果、13億94百万円の資金増加と

なった。投資活動キャッシュフローは、余資運用による投資有価証券取得などの結果、6億77百万円の資金減少となった。財務活動キャッシュフローは、長期借入返済や配当金支払などにより11億36百万円の資金減少となった。以上の結果、現金および現金同等物の残高は4億20百万円減の29億63百万円となった。

全体の教室数は、直営、FCとも順調に増加している。また、全体の教室の全国への展開状況をブロック別に見ると、九州・沖縄ブロックだけ3教室減少しているが、この地域だけはサブフランチャイジーということで代理店のような形で運営している。チェーン全体の末端売上高は431億円、これにFCの教材費とテスト料を含めると450億円くらいになる。

学習塾、予備校の全体の市場規模は右肩下がり、昨年度は9,140億円である。その中に占める個別指導塾の割合は、増え続けてきたが、昨年は前年比マイナスとなった。個別指導塾市場における当社のシェアは11.9%、全体では4.7%のシェアで、じわじわと上昇を続けている。

[FC事業における生徒数と売上] 教室数は86教室増の1,652教室、生徒数は3,344人増の11万611人である。しかし、残念ながら1教室当たりの平均生徒数は、前年同期比1.5人減の67.0人である。前期末では2人減だったので、多少は改善されているが、ここが今後の課題である。売上高は62百万円増の29億31百万円、1教室平均ロイヤリティ売上が2万2,000円減少の116万9,000円である。しかし、ロイヤリティ収入は毎年増えており、これが当社の収益を下支えしている。

[直営事業の生徒数と売上] 教室数は13教室の増加で、内訳は新規オープンが4教室、FCへの譲渡が2教室、FCからの譲受けが11教室である。生徒数は325人増加の1万4,454人、平均生徒数は2.9人減少し68.5人となった。前期末の対前年では5.5人減だったので、改善はしているが、FCと同じくこの改善が今後の課題である。売上高は前年同期比5.7%増、1億72百万円増の31億94百万円、生徒1人当たり平均単価は同1万円増の21万9,000円である。

[サッカースクール事業] 売上高が2.6%増の41百万円、営業利益は5百万円、生徒数が604人である。

[東京医進学院] 当初の半年間の計画にあるように、売上高で2億88百万円、損益面では赤字の計画であったが、実績は、売上高3億12百万円、24百万円増、これは冬季講習が堅調だったことによる。また営業利益が16百万円、31百万円増、経常利益が7百万円、25百万円増、当期純利益が11百万円、36百万円増である。ここは特別損益で、保険解約返戻金20百万円を特別利益で計上、また市ヶ谷と横浜2カ所の校舎が老朽化していたので、リニューアルをし11百万円特別損失を計上している。東京医進学院は、全寮制の三鷹校、多摩川校、通学制の市ヶ谷校、横浜校の4校舎がある。なお、のれん代償却は、半期で37百万円、通期で74百万円である。

◆2010年8月期業績予想(連結)

第2四半期で少し利益が出たので通期業績予想の修正を行ったが、東京医進学院は初年度でもあり、下期も従来の計画のままである。単体では、修正後、売上高が122億16百万円、経常利益が32億3百万円、当期純利益が18億85百万円、連結では、売上高が128億18百万円、経常利益が31億17百万円、当期純利益が18億円である。単体では増収増益、修正前は連結では増収減益という計画だったが、この修正の計画を達成すると、連結でも増収増益となる。

配当は、前期と同様年間で18円と計画している。第2四半期では半分の9円を支払い、8月の通期決算を見て増配については考えたい。配当金は、ジャスダックに上場した翌年から每期継続増配を続けており、個人的希望としては当期もまた増配できればと考えている。

(平成22年4月12日・東京)